集計結果の概要

1　あなたご自身について

各属性の上位２位までは次の通り

属性	1 位		2 位	
性別	「女性」	54.4%	「男性」	42.7%
年齢	「50 歳代」	20.7%	「40 歳代」	19.6%
世帯構成	「親子」	49.2%	「夫婦のみ」	25.7%
世帯に含む人	「小中学生」	20.5%	「65～74 歳の方」	19.1%
職業	「会社員・公務員」	42.4%	「パート・アルバイトなど」	15.7%
住まい状況	「一戸建(持ち家)」	65.2%	「集合住宅(賃貸)」	17.5%
居住地区	「研究学園地区」	29.2%	「TX沿線開発地区」	21.7%

2　現在の住環境について

(1)居住歴・市外居住経験

つくば市での居住歴は「30 年以上」が 37.9%で最も多く、「10 年以上 20 年未満」が 21.4%となっている。地区別にみると、居住歴が 20 年未満である割合は、ＴＸ沿線開発地区で 80%、研究学園地区で 50%を超えている。一方、研究学園地区とＴＸ沿線開発地区以外の地区では、居住歴が 20 年以上の割合が高く、いずれも 60%を超える。

市外居住経験については、「ある」が 1,165 人(84.7%)、「ない」が 166 人(12.1%)と「ある」が多くなっている。地区別にみると、研究学園地区、ＴＸ沿線開発地区では、「ある」の割合が 90%を超えている。

(2)定住意向・住み心地

つくば市の定住意向は、「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合が 85%以上となっている。

つくば市の住み心地については、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が 8 割半ばとなっている。(図１)いずれの地区別、年齢別、住まい別でも「住みやすい/どちらかといえば住みやすい」が 70%を超えている。

住みやすいと感じる主な理由は、「日常生活が便利」が 59.1%で最も多く、「豊かな自然」が 54.3%となっている。一方、住みにくいと感じる主な理由は、「交通の便が悪い」が 71.9%で最も多く、「日常生活が不便」が 55.4%となっている。

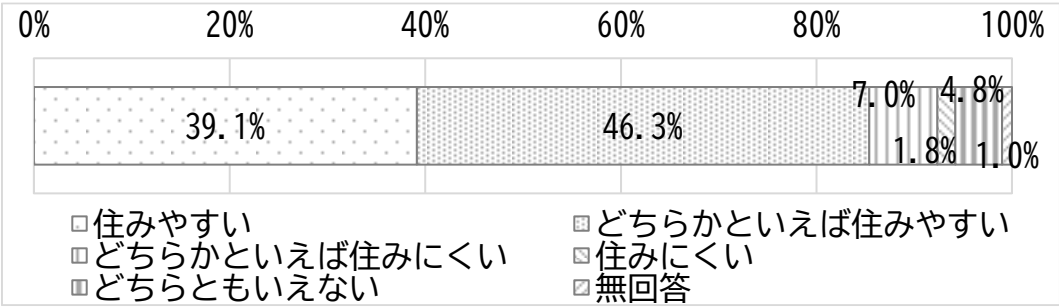

図１　つくば市の住み心地

(3)移住を検討する友人へのおすすめ度

おすすめ度の平均は 10 点満点中 6.69 点である。8 点が 23.1%と最も多く、次いで 5 点が 21.3%となっている。年齢が上がるにつれて、おすすめ度が低下する傾向はあるものの、50 歳代以下では 7 点以上の割合が半数を占めている

(4) 景観

つくば市の景観については、「優れている」と「どちらかといえば優れている」を合わせた割合が７割半ばとなっている。（図２）

優れていると感じる景観としては、「筑波山・宝篋山」が 55.6％で最も多く、「電線・電柱が地中化されている風景」が 31.6％と続いている。

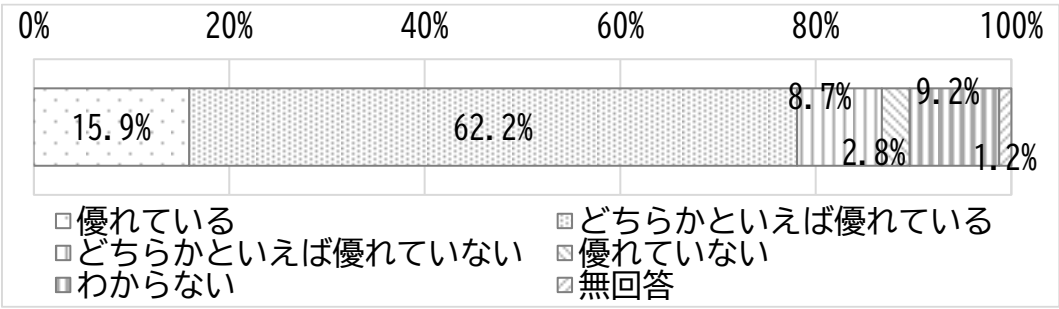

図２　つくば市の景観

(5) 市への愛着

つくば市への愛着については、「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた割合が８割超となっている。定住意向別にみると、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」では「愛着がある/どちらかといえば愛着がある」の割合が 80％を超えている。一方、「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けたくない」では「どちらかといえば愛着がない/愛着がない」の割合が 50％以上となっている。

３　つくば市の現状やまちづくりへの取組について

(1) 現在の満足度

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合をみると、「病院・診療所などの医療機関」は 75.6％で最も多く、次いで「住宅環境」が 72.7％となっている。一方、「不満」と「どちらかといえば不満」では、「公共交通」は 52.1％と最も多く、次いで「道路整備」47.1％となっている。

(2) やりたいことができるまち

つくば市がやりたいことができるまちであるかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が５割半ばである。

年齢別にみると、すべての年齢で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が 40％を超えており、特に 20 代は 70％を超えている。

(3) 紹介したいところ・自慢したいところ

紹介したいつくば市の魅力については、「科学(研究学園都市、研究機関の見学施設など)」が 37.1％で最も多く、「自然(筑波山、宝篋山、牛久沼など)」が 31.2％、「つくばエクスプレス」が 30.6％と続いている。

(4) 市政

市政に市民が参加できる環境が整っているかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が約３割である。

また、市政に対する意見を市に伝えたことがあるかについては、「市に伝えたい意見がない」が 32.9％で最も多く、「市が実施したアンケートの回答」が 25.3％、「区会・自治会を経由した意見表明」が 8.2％で続いている。

さらに、市政に市民の声が生かされているかについては、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が約３割である。

(5) 休日の外出

「つくば市内（車で５分以上）」が過半数となっており、「家の近所（車で５分未満）」を含めると、65％を超える。

(6) 筑波山地域ジオパーク

取組内容について「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」との回答が約半数を占めており、年齢が若いほど「全く知らない」との回答割合が増える傾向にある。取組内容を知っている人は、70％が「広報紙、新聞、パンフレットなど」によって情報を得ている。ジオパークの取組について、「体験イベント」に参加したい人が約 30％となっている。

(7) 地域福祉

地域福祉を推進するために必要な取組について、「支援を必要とする人に支援が行き届く仕組みづくり」が過半数を占めている。また、地域における助け合い・支え合いを推進するために必要な取組としては「近隣の住民同士の日常の付き合い」が 46.5%で最も多い。

4　少子高齢化への取組について

(1) 子育て環境

安心して子どもを生み育てられる環境が整っていると思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が約 6 割となっている。

子育ての環境について充実していると思うものについては、「子育て世帯への経済的支援」が 30%超で最も多く、不足していると思うものは「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談＃8000」が約 25%で最も多い。

(2) 高齢者の生活環境

高齢者が安心して住み続けられる環境が整っているかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が約 3 割となっている。

高齢者の生活環境について充実していると思うものについては、「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業＃7119」が 2 割半ばで最も多く、不足していると思うものは「日常生活支援(移動・送迎、買い物等)」が 3 割半ばで最も多い。

(3) 地域包括支援センター

地域包括支援センターの取組の認知状況について、「全く知らない」が 4 割半ば、「高齢者の生活や介護等の困り事相談」が 2 割半ばとなっている。年齢別にみると、50 歳代以下では「全く知らない」が最も多い。

5　防災対策・防犯活動について

防災対策として実施しているものは、「３日分以上の食料・飲料水の備蓄」が 50.5%で最も多く、「断水時に備えた携帯トイレの備蓄」が 33.7%、「住まいの耐震（免震）構造」が 32.7%で続いている。

防犯活動への参加については、「参加していない」が 88.0%で最も多くなっている。参加しない理由として、「組織があるかわからない」が 44.1%で最も多く、次いで「時間がない」が 19.6%、「わからない」が 11.9%で続いている。(図３)

防犯対策としては、「センサーライト、防犯カメラ、カメラ付きインターフォン」を設置するとの回答が約６割となっている。

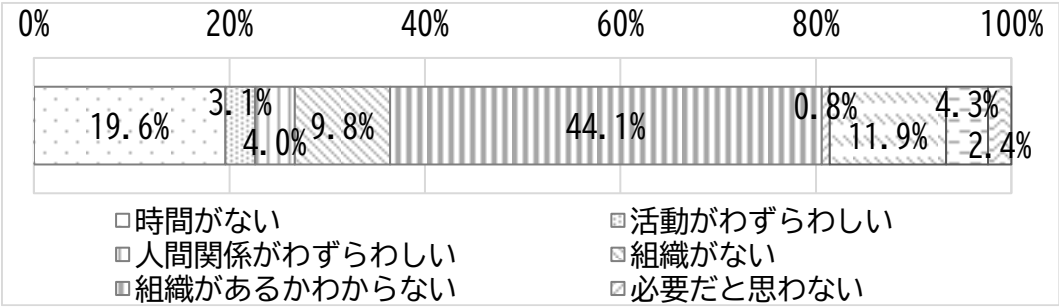

図３　防犯活動に参加しない理由

6　交通環境について

(1) 日常利用する交通手段

日常利用する交通手段は、「自家用車」が 88.8%で最も多く、「鉄道」が 31.6%と続いている。

(2) 歩行者と自転車と自動車の共生

歩行者と自転車と自動車が共に安全で快適に通行できているかについては、「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせた割合が 5 割半ばになっている。地区別にみると大穂地区、豊里地区、谷田部地区、茎崎地区では「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計割合が 60%を超えている。

(3) 望ましい交通環境

つくば市の望ましい交通環境については、「公共交通が便利で、自動車がなくても生活できるまち」が 53.8%で最も多く、「自動車がスムーズに走行できるまち」が 20.6%、「自転車を安心・便利に利用できるまち」が 12.3%と続いている。（図４）年齢別にみると、20 歳代を除き、全ての年齢で「公共交通が便利で、自動車がなくても生活できるまち」の割合が最も多い。一方、20 歳代は、「自動車がスムーズに走行できるまち」の割合が最も多い。

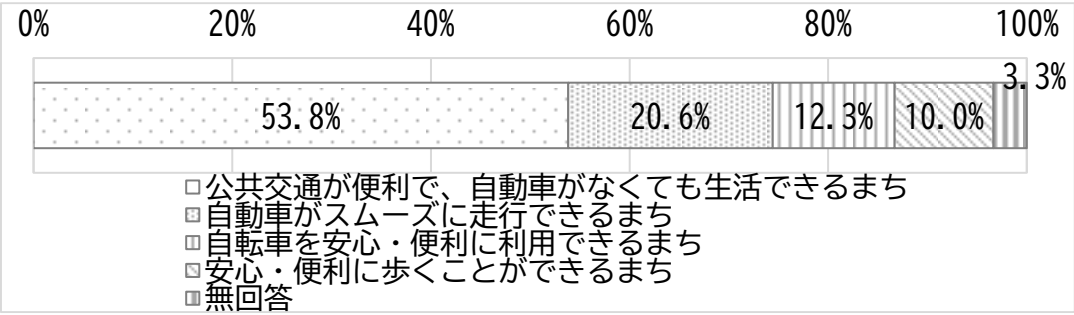

図４　望ましい交通環境

7　運動習慣について

この一年間の運動やスポーツの頻度については、週に 1 日以上の割合が 6 割超となっている。年齢別にみると、75 歳以上では週に 3 日以上の割合が 40%を超えている。一方、週に 3 日以上の割合が最も低いのは 30 歳代の 20.2%である。

8　つくば駅周辺地区の活性化について

(1) つくばセンター地区（つくば駅周辺）への来訪頻度

つくばセンター地区（つくば駅周辺）に訪れる頻度については、「年数回程度」が 28.6%で最も多く、「月１、２回程度」が 28.5%で続いている。

つくばセンターを訪れる主な目的は「日常の用事」が 45.0%で最も多く、「移動・乗り換え」が 20.4%。「娯楽」が 14.4%となっている。過年度と比較すると、年々「日常の用事」が減少し、「娯楽」と「移動・乗り換え」の割合が増加している。

(2) つくばセンター地区の活性化に必要な取組

にぎわいのあるつくばセンター地区にするために必要な取組については、「商業施設の誘致」が 46.8%で最も多く、「駐車場の拡充」が 34.4%、「公共交通でのアクセスの向上」が 30.2%、「オープンカフェや朝市の設置」が 29.7%で続いている。

9　科学のまちについて

(1)「科学のまち」による恩恵

「科学のまち」であることの恩恵を感じるかについては、「あまりない」と「ない」を合わせた割合が約 5 割となっている。（図５）

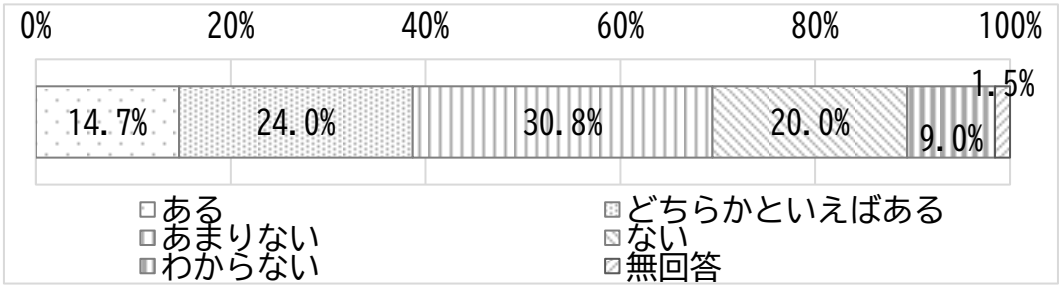

図５　「科学のまち」による恩恵

(2) 科学のまちの恩恵の内容

「科学のまち」であることの恩恵の内容については、「研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること」が 40.2%で最も多く、「数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること」が 38.0%、「学校等で科学教育の機会が提供されること」が 30.5%と続く。

10　国際都市つくばについて

つくば市が国際都市として取り組むべきことについては、「学校での国際理解教育」が 29.8%で最も多く、「世界に向けたつくば市の魅力の発信」が 25.7%、「案内表示・施設窓口での多言語対応」が 21.2%で続いている。

世界中から多様な国籍の人が集まっているまちに住んでいる良さについて、「感じていない/どちらかといえば感じていない」が 5 割半ばとなっており、前回調査よりもネガティブな回答が増加している。

11　ＳＤＧｓ※(持続可能な開発目標)について

(1)ＳＤＧｓの認知度

ＳＤＧｓに関する認知度については、「少し知っている」が 47.3%で最も多く、「名前だけは知っている」が 21.7%、「よく知っている」が 20.2%と続いている。年齢が高くなるにつれて「よく知っている/少し知っている」が減少する傾向がある。10 歳代から 50 歳代では「よく知っている/少し知っている」の割合が 70%を超えており、10 歳代では 87.9%と最も多くなっている。

(2)ＳＤＧｓや持続可能都市に関することで関心が高いもの

ＳＤＧｓや持続可能都市に関することで、関心が高いものは、「食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負荷の低減」が 50.6%で最も多く、次いで「地産地消の推進による地元農業の推進と環境負荷の低減」が 44.6%、「子どもを中心とした貧困の解消」が 34.5%となっている。

※ ＳＤＧｓとは

Sustainable Development Goals の略。2015 年の国連サミットで採択された 2030 年までに達成するための「持続可能な開発目標」です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。つくば市は、ＳＤＧｓの理念を「持続可能都市ヴィジョン」として反映し、取組を進めています。

12　幸福度について

(1)幸福度

幸福度については、10 点中、平均 7.13 点となっている。「8 点」が 23.1%で最も多く、次いで「7 点」が 20.0%、「5 点」が 14.0%、「9 点」が 11.9%と続いている。

幸福度を判断する際に特に重視することについては、「健康状況」が 75.3%で最も多く、「家計の状況」が 44.8%、次いで「家族関係」が 43.9%となっている。年齢別にみると、10 歳代では「精神的ゆとり」が最も多い一方、20 歳代以上では「健康状況」が最も多い。

(2)心配ごとや困っていること

496 人から回答がなされた。それらを分析したところ、「① 高齢者や障害者等の生活環境について」、「②交通インフラについて」、「③育児・教育環境について」、「④地域における生活環境について」、「⑤土地や住宅 について」、「⑥防犯・防災について」、「⑦外国人について」、「⑧市政全般について」及び「⑨その他」に分類できた。